

青少年相談員だより

—愛のパトロール—



フィルタリングソフトを使って青少年に有害な情報を
閲覧・視聴させないようにしましょう



問い合わせ 市児童福祉課 ☎873-2111内線1733

青少年育成牛久市民会議(市生涯学習課内) ☎871-2301

安全に使用おう情報機器

被害者や加害者にならないために

～メディア教育研修会に参加～

情報化社会の進展に伴い、子どもた

ちが携帯電話やインターネットを容易

に利用する機会が増え、とても便利に

なりました。その反面、出会い系サイ

トへのアクセスや架空請求メールの配

信、自殺・家出サイト、掲示板での誹

謗・中傷・いじめなど青少年への悪影

響や生命の危険が懸念される事件が多

く発生しています。

しかしながら、保護者や大人は、携

帯電話やインターネットなどについて

の操作や機能の知識が子どもたちより

遅れている場合が多いため、子どもた

ちがどのようにそれらの機器を使用し

ているか、また使用することにあつ

ての問題点などを把握しにくい状況に

あります。

このため茨城県では、「メディア教育

指導員」を養成し、携帯電話やパソコ

ンからのインターネットを通じた有害

情報から子どもたちを守るための取り

組みの一つとして、各地で研修会を

行っています。10月16日(火)、向台小

学校ではPTA主催で実施されまし

た。要請に応じて研修が可能というこ



保護者の質問に答える佐藤指導員

▼保護者・大人がすべきこと

①使用目的を話し合う

②子どもの通話記録を見ることを約束

させる(事件に巻き込まれ、親が通

話記録の相手を調べようとしても警

察以外はできない)

③プライバシーより命が大切であるこ

とをきちんと説明する

④フィルタリング(※)は保護者に努力

義務があると同時に業者も説明義務

がある(茨城県青少年のための環境

整備条例第21条の3)

※フィルタリングサービス：有害サ

イトアクセス制限サービス。20歳未

満の子どもに携帯電話を持たせる場

合、各社では無料で行う。

牛久市青少年相談員 担当学校区

牛久第一中学校区

川瀨清敏 ☎872-1574

佐々木やよい ☎872-6395

羽鳥芳子 ☎873-2751

永井幸夫 ☎872-4725

五十嵐登喜子 ☎872-3181

小峰真澄 ☎874-3336

牛久第二中学校区

山岡恒夫 ☎875-0533

古渡久子 ☎875-0276

小林勝子 ☎875-1180

酒井喜久乃 ☎875-0659

松沢淳一 ☎875-0551

坪井幸裕 ☎875-0016

牛久第三中学校区

西山孝子 ☎872-5247

小林良雄 ☎872-0242

関口眞智子 ☎872-1590

高原久子 ☎874-2471

千葉憲夫 ☎874-2117

笠間順子 ☎873-5174

下根中学校区

柳井哲也 ☎873-4374(会長)

岡久浩子 ☎873-3721

中村すい ☎872-7325

大野光雄 ☎872-1843

古里誠公 ☎873-0242

後ノ上金成 ☎872-2063

牛久南中学校区

諸橋康之 ☎874-7410

飯塚寿子 ☎872-7582

小竹伸子 ☎873-4078

杉田久蔵 ☎872-5450

金山和司 ☎873-8970

谷内博子 ☎872-8501

演劇による青少年と大人の交流事業



この事業は、演劇を通じて青少年が大人の劇団員や地域の大人と交流を図ることにより視野を広め、協調性や思いやりの心をはぐくむと共に豊かな創造力と自主的な行動力を高め、世代を越えた共感と理解を得、地域における青少年の健全育成を図るものです。

10月14日、市中央生涯学習センターにおいて高等学校が3校、大人の劇団2グループによる演劇公演(上写真)が行われました。それぞれの高校生が、表現は異なっても現代社会の有様を良く考えている様子や自分にも悩みがあるのに友を助ける友情愛など、複雑な高校生の心の内を垣間見ることができた素晴らしい内容の公演でした。また、地域の大人として、市の青少年相談員6人が協力しました。

都立萩山実務学校を視察して

10月23日、東京都立萩山実務学校を視察しました。この施設は、不良行為をした、またはする恐れのある児童および家庭環境やその他の環境上の理由により生活指導を要する児童を入所させる児童自立支援施設で、個々の児童の状況に応じて必要な指導を行い、その自立を支援することを目的とした学校です。現在12歳から18歳までの男女69人(定員84人)が豊かな自然環境の中で共同生活をしています。

入所した子と親が、失われた絆を懸命にたぐり寄せていくビデオを見ました。先生の「見捨てないよ」という言葉と母親が自身の言葉で心の内を伝えたことで、子どもに笑顔が見られるようになり絆を取り戻していきました。まさに親が変わったことで、子どもが変わった事例でした。

施設見学中、宿直の先生が「両親の仲が良いこと。親が仕事をきちんとすること。一日一食は手作りの食事を一緒に食べること。まずこの三つが特に大事です」と、語気を強めて話していたことが印象的でした。



管理課長の話を聞く青少年相談員

「平成19年度全国青少年補導センター連絡協議会土浦大会」に参加

記念講演では、「命はなぜ大切か」子育ての原点を考える」と題して、元上野動物園長中川志郎氏が、いろいろな動物を例にとつた子育て論を展開されました。

例えば、親に抱かれ密着しながらまねて学び、ひとり立ちしていく・早期に母親から離された犬は噛みつく・攻撃力の強い猛獣ほど哺乳時に、相手を傷つけない咬み方や引っかき方のコントロールを学び、親への信頼感も育つなどから、最近の命を軽んじた事件を憂

い、「お母さんは子どもを抱きしめなさい」と力説されました。

その後、三つの分科会に別れ討議がなされました。そのうちの第二分科会「補導活動」では、宮崎市青少年育成センターの現況と課題の発表があり、全国の出席者から活発な質疑応答や意見交換が行われました。補導活動では、①警察活動のような公権力の行使とは異なり、青少年を望ましい方向に育成していくこうとする認識で活動を行うよう心掛ける。②地域のおじさんおばさん役として、未成年者の喫煙も、すぐには注意せず「ちよつと早いんじゃない。体に悪いよ」と相手のことを考え、やんわり声を掛けて気づかせることが大事である。などの意見も出されました。

愛のスタートは家族から。

